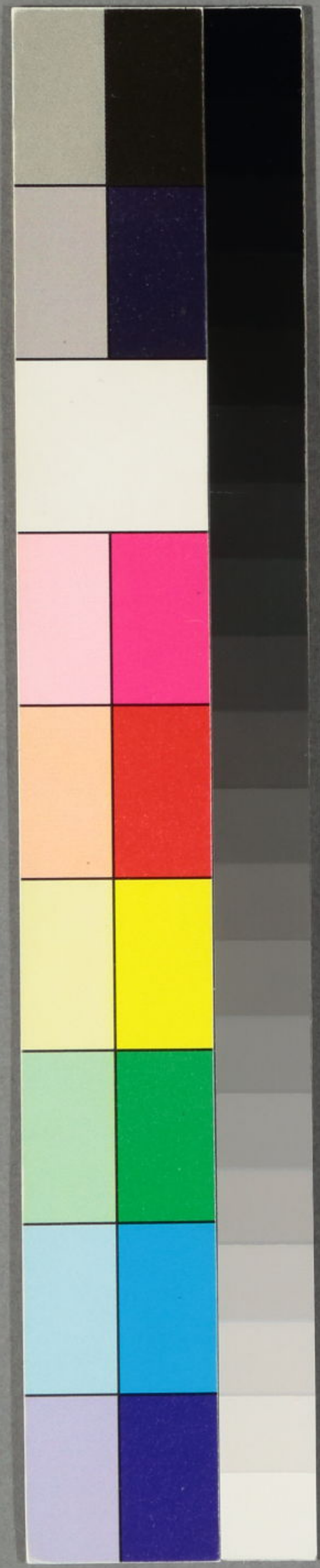




東都家事記

春下

二



江戸歳事記卷之壹春之部下

二
同

朔日○日光久照五山漸鏡鑑漸北頂戴

上冊圖山天名宗古院多雲北城

中丁日○湯誓堂

シマクテン
新奠
オキマツリ

唐八達すゝあゝは光聖先師五哲とすゝゝ又宋明六君子
の画像と掛ゝゝ程明道 程伊川 邵康節 張栻渠 周茂叔

朱文公あり本朝萩蕙の始ハ 文武天皇大元元年あけり古傳云臣入唐の後潤毫ふよりと
萩蕙の元は傳りしう鷹仁の机以煖中統を起るに寛永十年空箇林乃春先生 海余試蒙り
上世に一履と經營して先聖英十哲の像と爲る是と先聖殿といふ元禄四年辛未二月尚ふへ
移され年々萩蕙の式と文以仍る萩蕙の制度とをふるん

嚴塾集七
甲子仲春詣江都上野先聖殿觀釋奠

今曉初觀先聖殿杏壇春雪更清鮮笙簧鼓樂融和至黍稷粢盛芳

潔連三聖明明如在上六賢翼翼似臨前慙懃拜于兩楹下且喜儒風吾國傳

奉中司事到合

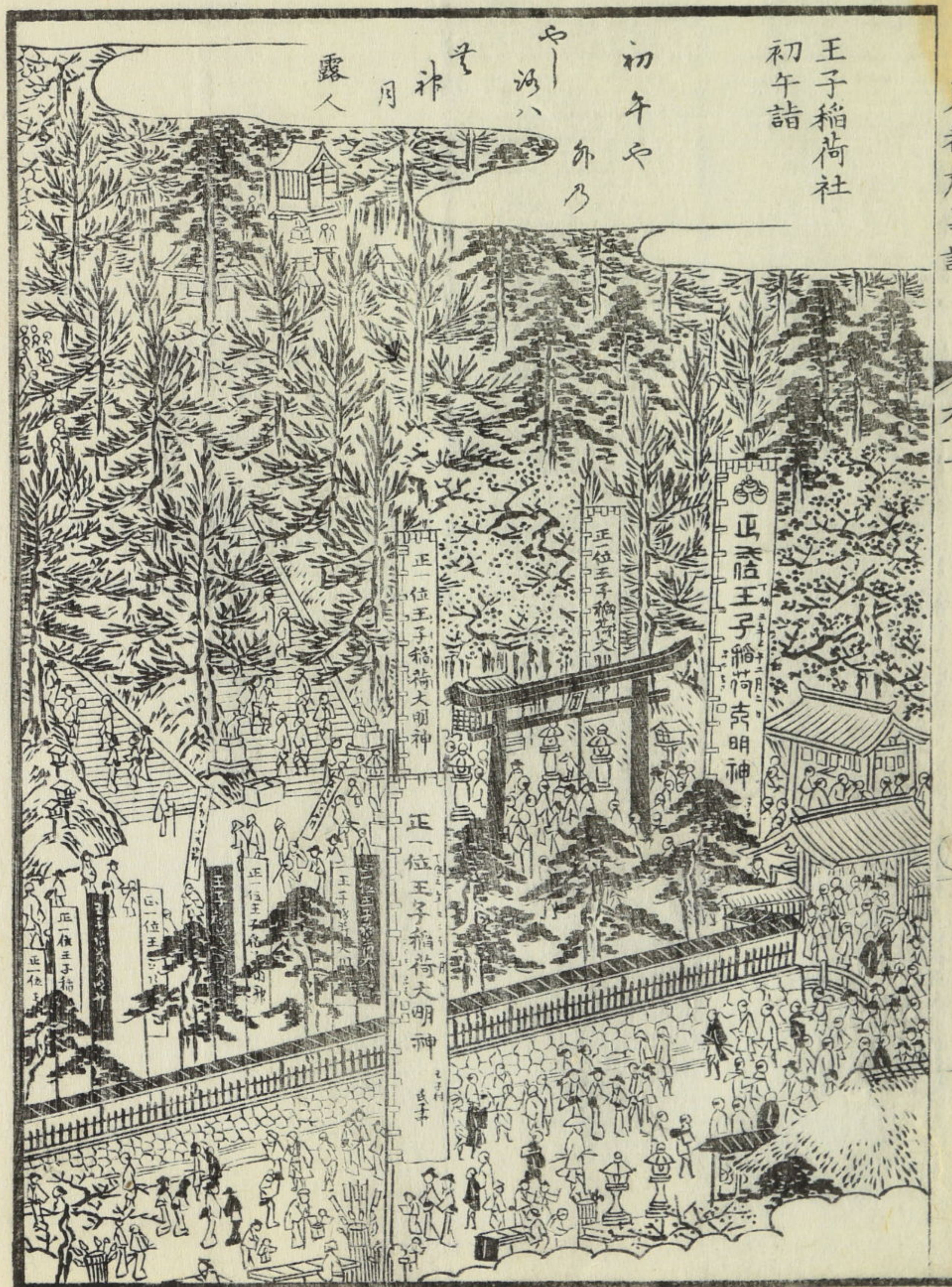
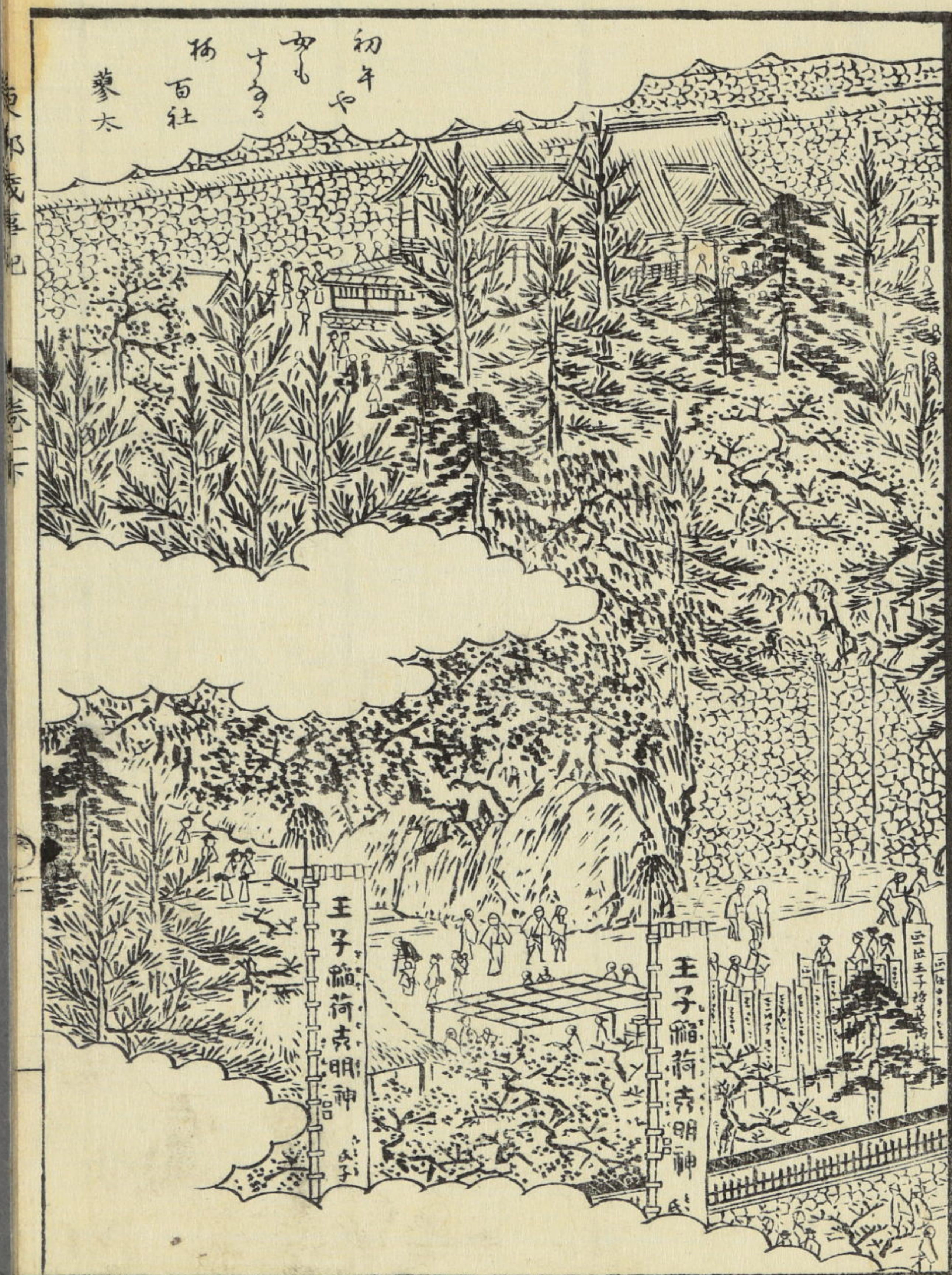
うづのやまにうけとらふひりおとと人參あり
二位中將

○この岩小出原山中屋敷聖像と許せりやう

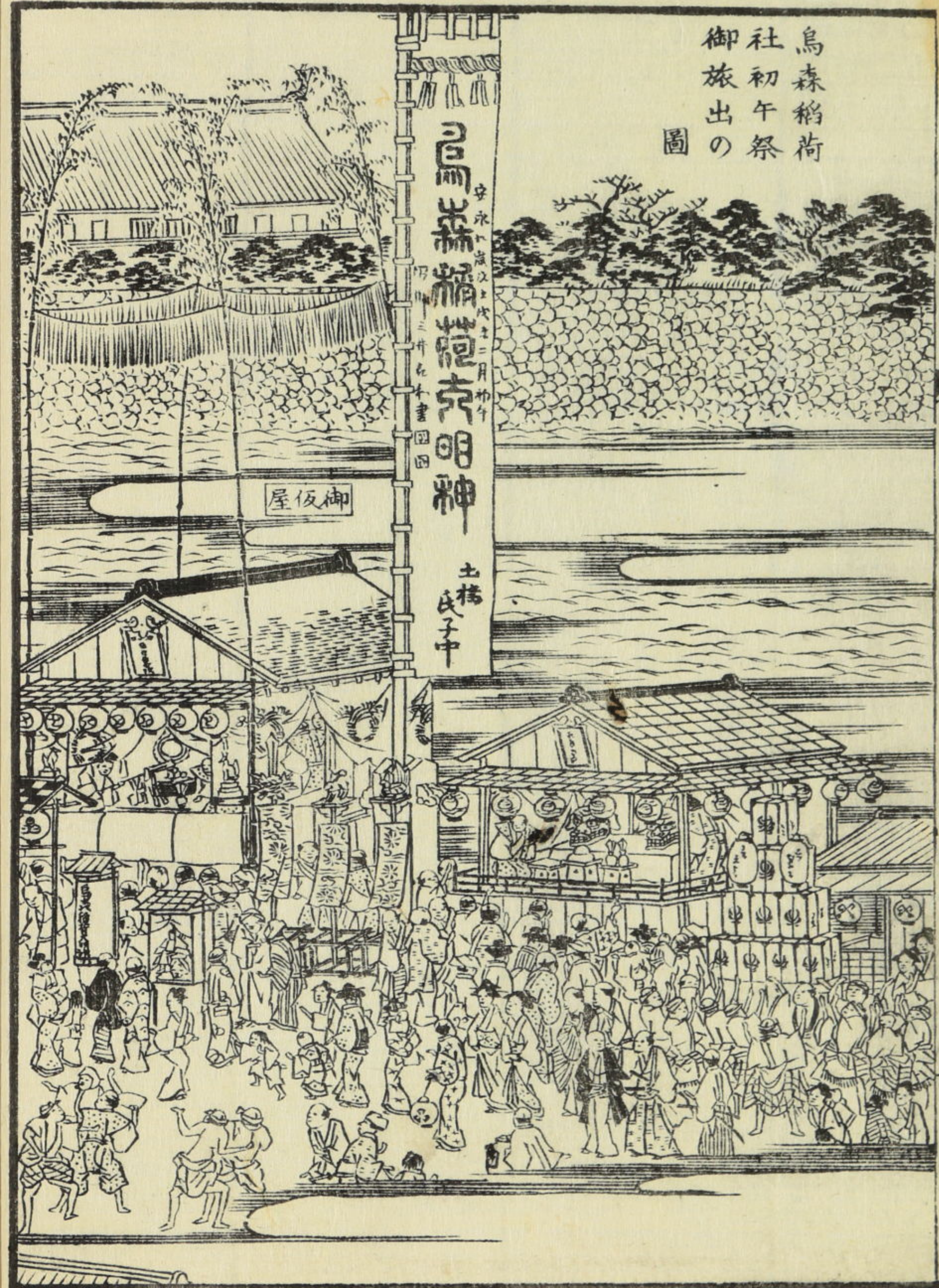
年○
戶
中

初年○江戸中務所祭前日より賑へり

社親睦其る可なり。お社の境及よ安寧を祈れ。衆とさけ。市中のみ。排。



鳥森稻荷
社初午祭
御旅出の
圖



鳥森稻荷大明神

土橋氏子中

辛橋門

初午

江戸

一木

森

教

百明



乃焼く... 人街より多し

王子稻荷 別当金輪も関八岳稻荷の司なり 妻戀稻荷 湯崎より主社ありて...

目比谷稻荷 二日ありて産子の町に津雲と源一津流へて遷座ありて初年の翌日遷座出...

ありて... 島森稻荷 別当長院津...

ありて... 穀豊稻荷 小田氏初年の二日...

ありて... 櫛本稻荷 長農...

ありて... 柳森稻荷 柳系隔手肺...

ありて... 柳の稻荷 湯崎より...

ありて... 太田娘稻荷 湯崎より...

ありて... 太田娘稻荷 湯崎より...

ありて... 西文稻荷 湯崎より...

ありて... 油指稻荷 湯崎より...

ありて... 九郎助稻荷 湯崎より...

ありて... 澤藤稻荷 湯崎より...

ありて... 花園稻荷 湯崎より...

ありて... 二田稻荷 湯崎より...

ありて... 産子代稻荷 湯崎より...

ありて... 三圍稻荷 湯崎より...

ありて... 子代世稻荷 湯崎より...

ありて... 半田稻荷 湯崎より...

ありて... 三崎稻荷 湯崎より...

ありて... 初年や賽せん...

○二年日曜坂功運も移前神楽無引は長境内土木の爲に様大に盛なり
○二年の月廿谷芽町境稻荷爲れ少く宝曆十一己年までハ隔年ハ神楽と後一芽町同
二丁目教養町と芝屋大町町池と沼上町根津門五町同定永町湯橋篠安寺つ兼同経津既
門前上九町より十一番の中一初り物を中一より同十三永年神楽をよりと後一安永二
年よりハ神楽も出る事となし

彼者○ 春分の初日より二日よ
尚も月紙初日より
七日の留諸寺院佛事と候一説法未成なり

世所聞者流矣——俗家少年但能表——悟不暇也

○六、阿系陀系
六、阿系陀系に於基并の相なり
被差中、都鄙の俗、各殊なり

六番
下谷廣小
天
為樂院
田畑
廿六丁
四番
田畑
云

子樂寺
西乃至人
廿丁

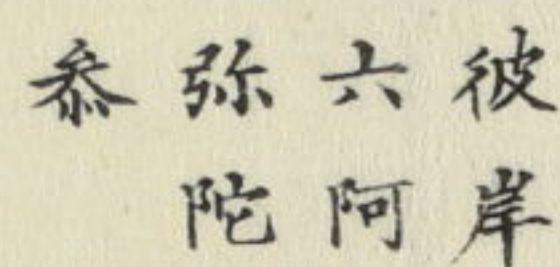
二番 病う系 云 去
五量寺 寺修人 其下
一番 上豊福村 宋 祥

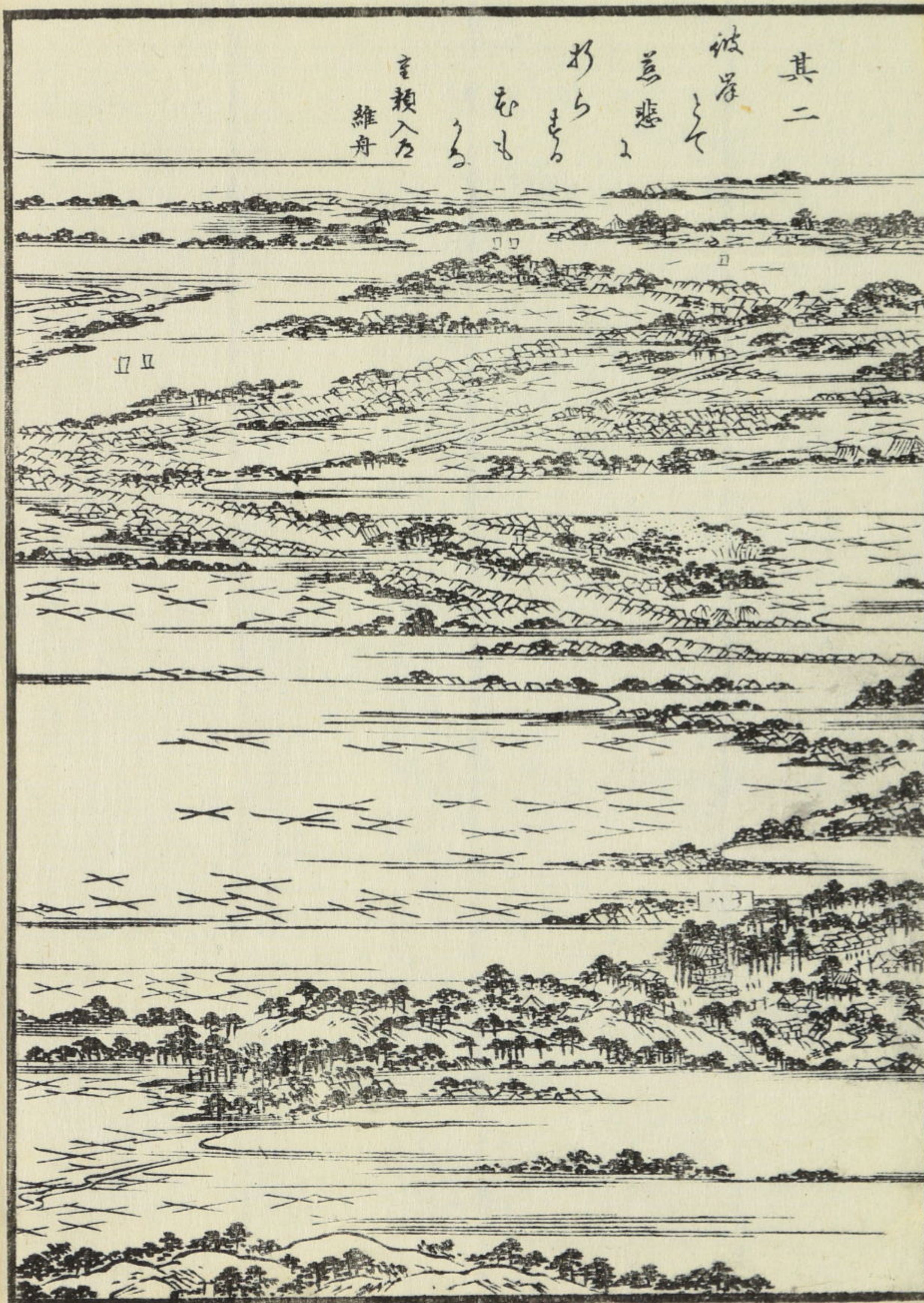
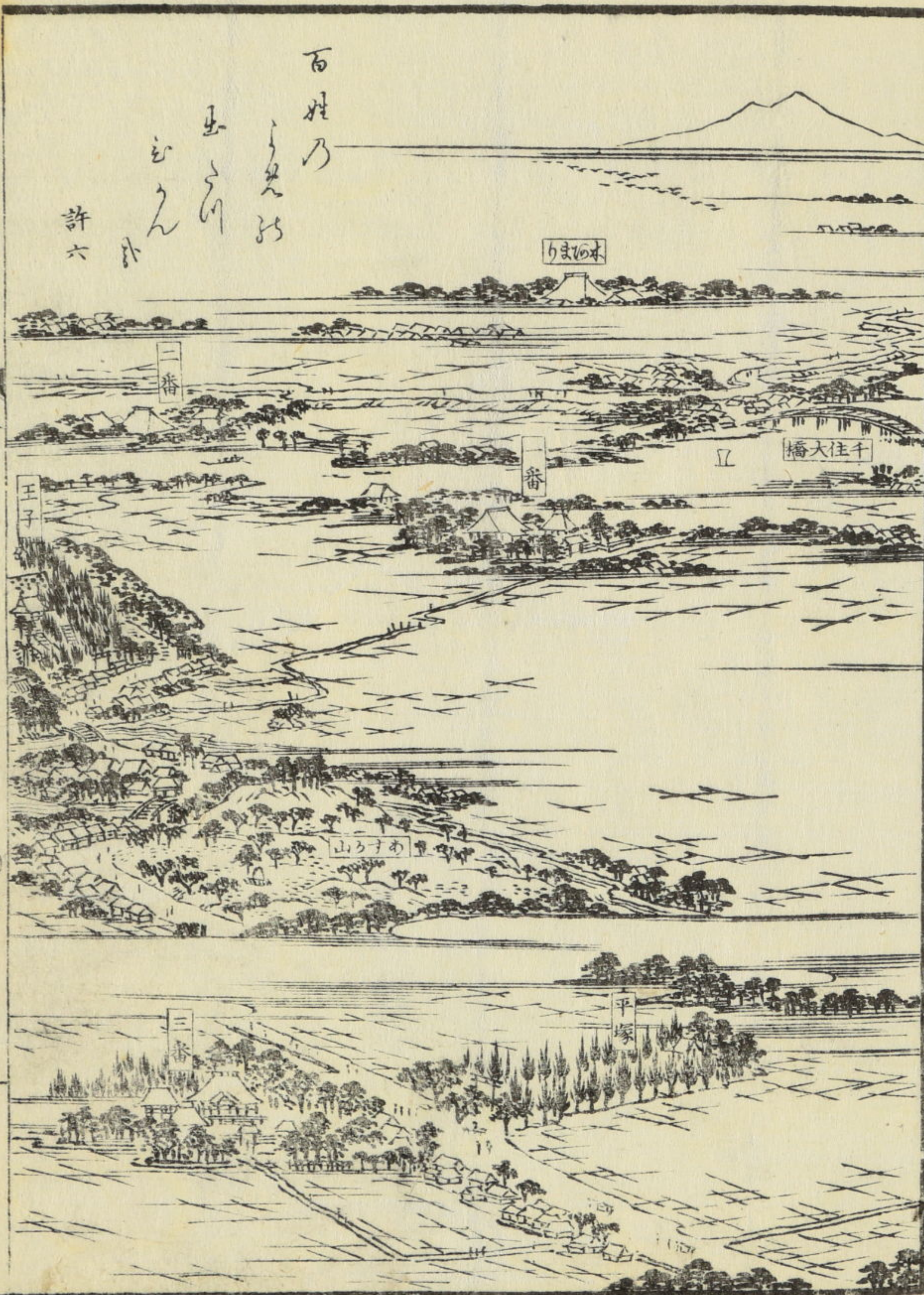
孤獨寺
源田八十子
呂若清

二番 卜沼田
延令院
六番 桑戸

常光寺

文城村性翁より弥陀如来の像ハ新基并ニ阿弥陀の末本と云々造り久しかり世に傳へり
の弥陀より石田延命院より三子江町へ寄る去り下にありに阿弥陀巡礼の輩ハ多かり





卷之七

南齊之法つるあり
のり破峯外其角

○山の寺、阿陀陀泰

一番江表門外了學焉

三番 泰山雙龍橫町高徳寺

又番同通之保町梅窓院

○ 西方阿彌陀

一番病久保大養寺

三番 三田 丁目春林寺

六番白令正源寺

○ 奥沢澤 クホシグツ 九不伝系

○西方三十三所觀音札所集

一番 版金 順子

七番 麻布谷丁 永昌 長之

十番 六本木 光 寺 寺

十二番 一本松下 彦重為

二十六番 白子 福照寺

五十一番 言論一山

十八番	三田町丁	林泉寺
十六番	聖坂	源海寺

市に記さるるもの概不集は
之を編む二十之未未海

親と妻の情を

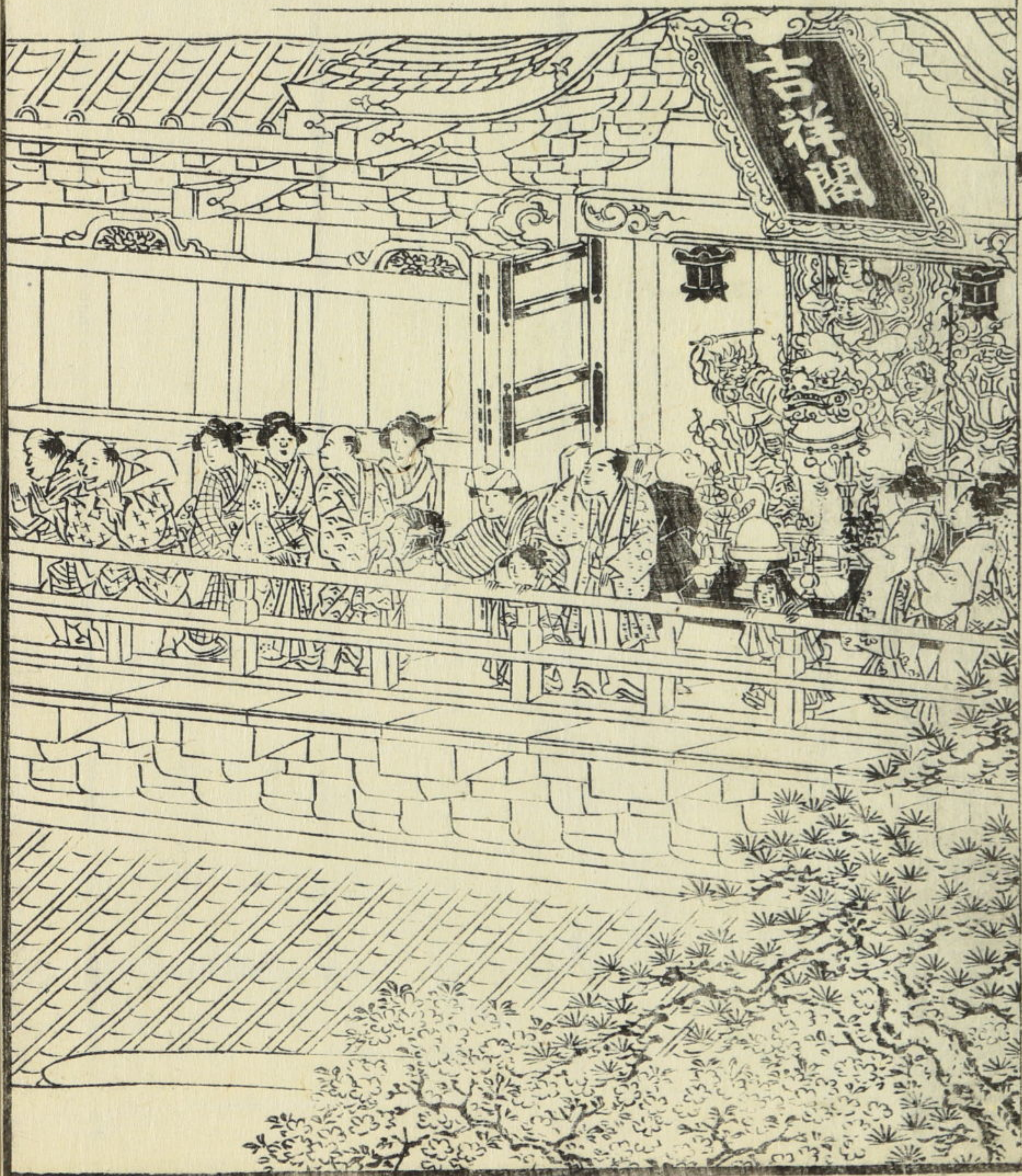
○高倫泉爲經文所不取

上無法水觀音堂放生會

○陸豐家義士曰

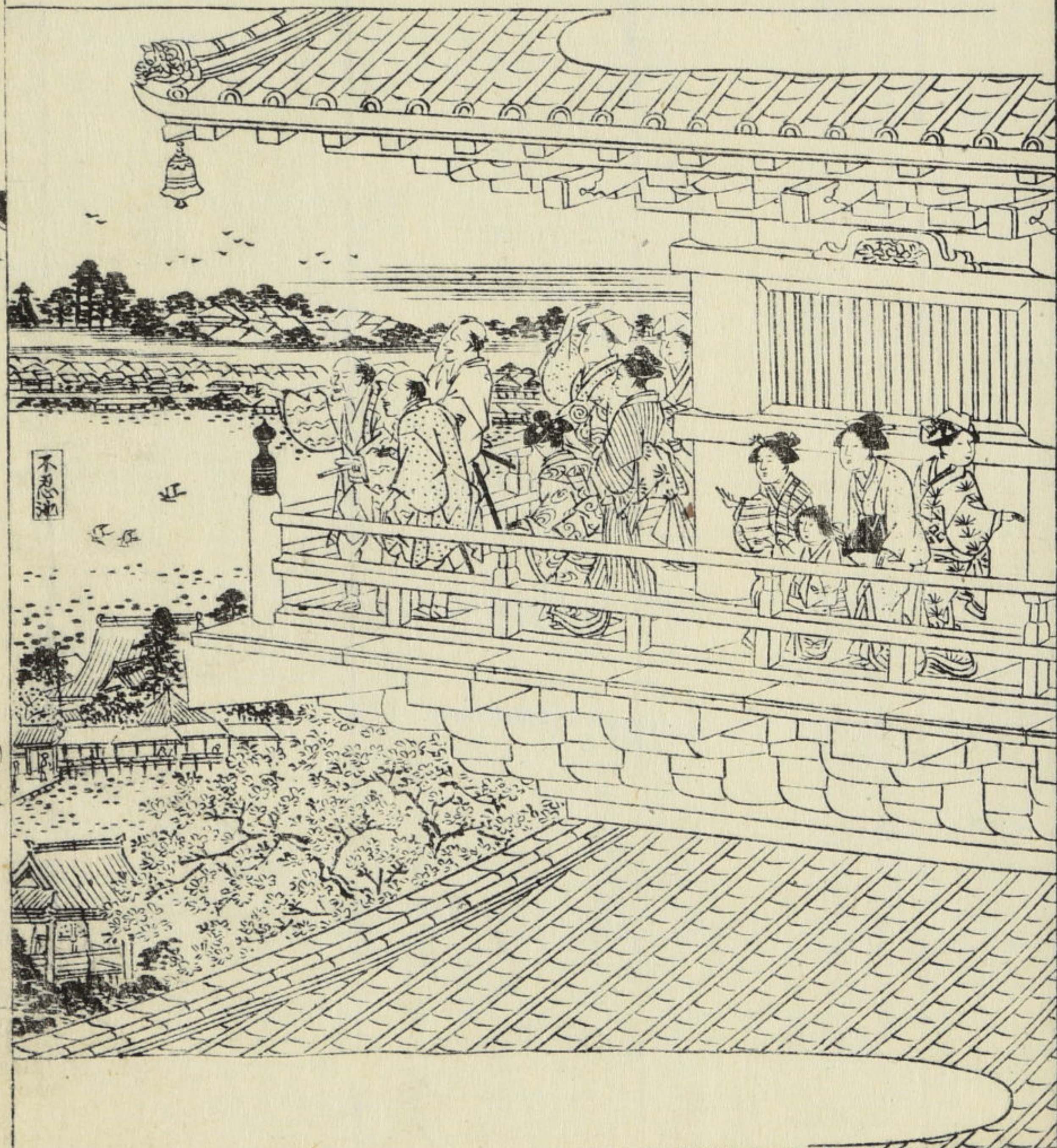
通志卷之四

二月十五涅槃
會の日東叡山
文殊樓に登る
圖



春日登東叡
高閣
凭欄偏訝履空
行愁眼與春俱
快晴紅日映檐
扶御榜翠濤吹
壁畫仙瀛千林
花氣衆香國萬
戶人烟舍衛城
安得閑携善財
手昆明却外話
無生

六如菴



六如庵詩鈔二編六 謁義士墓
君辱臣死分所當生同吞炭死同墳古來一人得猶難况乃四十七豫讓

八日○正月奉納め家々荒目録と竹の先ふ付て屋上ふまふ

十日○湯湯天満文藝會

別當森見院九日より多活群集を休養とせしめ居てあり
り又休養と無きも産子の町に挑灯帳を懸けたり正月

十日○牛込京町幸園より都々一日近修り

九日説法十六日誕生會其の日を菩提師
出更衣放生會音楽見舞表との外執り

あり廿二日より施縁鬼あり

十日○釈尊涅槃會

諸宗

東叡山常沙堂

二川堂の左法堂あり
修り施縁鬼あり

増上寺

本堂より修りあり

沙弥寺

己の刻一山の施縁鬼あり
本堂より修りあり

下谷養玉院

坂本より今日掛るところの付也涅槃會あり
大塚護りあり

涅槃會と要圖にて修縁安位の事あり世々修り大帳よりをききあり
同安養院

○今日五家より正月の縁鬼と修りあり
○今日五家より正月の縁鬼と修りあり

○今日東叡山 増上寺 沙弥寺 山に登樓はゆる

正月十六日
のち

南都文集

登吉祥閣

吉祥層閣倚蒼穹宮殿爭高此地雄似叩天關朝北極應觀世界住虚空
彩雲近傍諸陵出玉樹斜連御道通一自飛來稱驚嶺長懸日月照山東

同 佛滅日上三緣山三門

黄金開上苑白馬創東京待闕三門鎖登驚百仞成太虛通帝坐妙麗壓
乾城王氣深陵勢官陰徹梵聲練明迎海霽綺錯繞都平煙煖色花早日

遲林鳥輕仲春傳佛滅萬古會羣生自力恒沙盡俯觀品類情

○小日向腹部坂新興寺法花經の文字して画る六百羅漢木画幅掛る

十六日の条よりあり○寺田穴八幡文林集無引○日谷天祐寺雷電稲荷あり

○堺町中むら勤王御座ありは日蓮居たり無引の目よりして一庵のありあり

十六日○本取一ツ目天天堂琵琶會

今宵十二度の修縁あり已刻より替者あり乃内陣
小集會一琵琶と彈一平家と語り末刻は終る
尚ほ元禄の比松山檢校信一の勅法ありあり檢校相則江の時の無き天祐朝計術の妙
と語り元禄の始末ありは地と詳し檢校と給へ是江戶檢校の始ありあり
宗の中興と稱す今日京師の東坊門の小法聚庵より盲人集會一始末の画像あり
画像とて琵琶會修りあり修りあり人王の時代 仁明天皇第四の皇子と人康親王とあり
又天祐の皇子とあり
二月十七日四十二才より薨御ありは皇子盲人と懺せむひて勾當檢校といふ坐のありあり
のりあり今日より洋忌の速報ありあり報恩のためあり又翌十七日
日東河系より積塔會ありあり

墨田川堤
看花



荒波
根の
屋敷
おろし
き
す
花
河
冷泉
高村卿



湯治麟祥院 根津権現社 小石川傳通院 本寺のあ 大塚護持院 廣尾

光林寺 麻布 成子系 大本 中世宝仙寺 光林寺 同恩社 大本 池上本町

大木本坊乃 聖功功運寺 外寺院小寺

単辨様 ○ 同六十月 東叡山 山王 吉祥園の傍 寺堂院の辺 田軒も町林中 寺本坊

谷中七面文境内 駒込吉祥寺 小石川白山社地蔵様 大塚護持寺

小金井橋の女尊 江戸より七里余あり南東の橋ハ寛永の昔橋をせぬハ殿后享保

の改めりて今と申す此川を昔は小石川と云ふなり橋より水と小石川と云ふなり

と云ふ今ハ其後の分ちありと云ふに老木とありぬなり橋より水と小石川と云ふなり

同 五妻 五妻 東叡山 山王 吉祥園の傍 寺堂院の辺 田軒も町林中 寺本坊

王子金輪寺の系 花の江ハ山王 日事ハ縁 平塚社辺 奥沢九不佛 同恩社天寺

小石川御殿山 東海寺法堂の社辺よりなり於下の良跡日毎ニ群集 較池御光寺 礎礎

同不先福寺 け不と太井と云ふ小川 高輪如來寺 世々大下と 隅田川堤 本母

と辺 け不と太井と云ふ小川 高輪如來寺 世々大下と 隅田川堤 本母

け不と太井と云ふ小川 高輪如來寺 世々大下と 隅田川堤 本母

け不と太井と云ふ小川 高輪如來寺 世々大下と 隅田川堤 本母

重辨櫻 ○ 五妻七十日 東叡山 山王 吉祥園の傍 寺堂院の辺 田軒も町林中 寺本坊

王子権現社辺 駒込の川 根津権現社内 谷中

天王寺 同瑞林寺 小石川御殿山 較池御光寺 光福寺 津蓮寺

同来福寺 女八品の橋あり高寺橋板安永四年の撰橋縁起ハ 大塚護持寺 池谷

金王様 一名聖 子秋谷仙妻院 新日暮 柏木村圓照寺 衣雲様 砂村元

八幡宮 小石川御殿より十八丁程あり 衣雲様 日本堤 天保四年の表より

ありを推本多く推本あり 衣雲様 日本堤 天保四年の表より



遅様 ○ 同ー 東叡山

清水石坂の上 同本寛院

○ 沙茶木のふきさく 江戸八幡の園女
お仙様は今少ー 以上お父様麻呂様

花曆の一枚摺ふりて月並を採まはるに記せー 同くむさ目並なり 美澄と見んとすー 八
あまふりおくれてさるへさかり様も限らぬ開花の時作大概定りあれども冬の寒ふりて
少ーの遅進あり又種数ふりても花底あるうぬ一さ一ふといへりてさるへとさるへて見
るふりてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへて
ふ今来哉ま百余年ふりてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへてさるへて
○ 花の以多路曲の師通門下の童子幼女と集て花見にわさ又吉本虎の花見上時目く 隅田
川おとむさへー 一子智の師と車中やむの兒嵐雪

様 ○ 五葉ふ七十

戸田の原

子任 澤井 極楽屋 巢鴨 極楽屋 除雨

山茶 ○ 五葉ふ七十

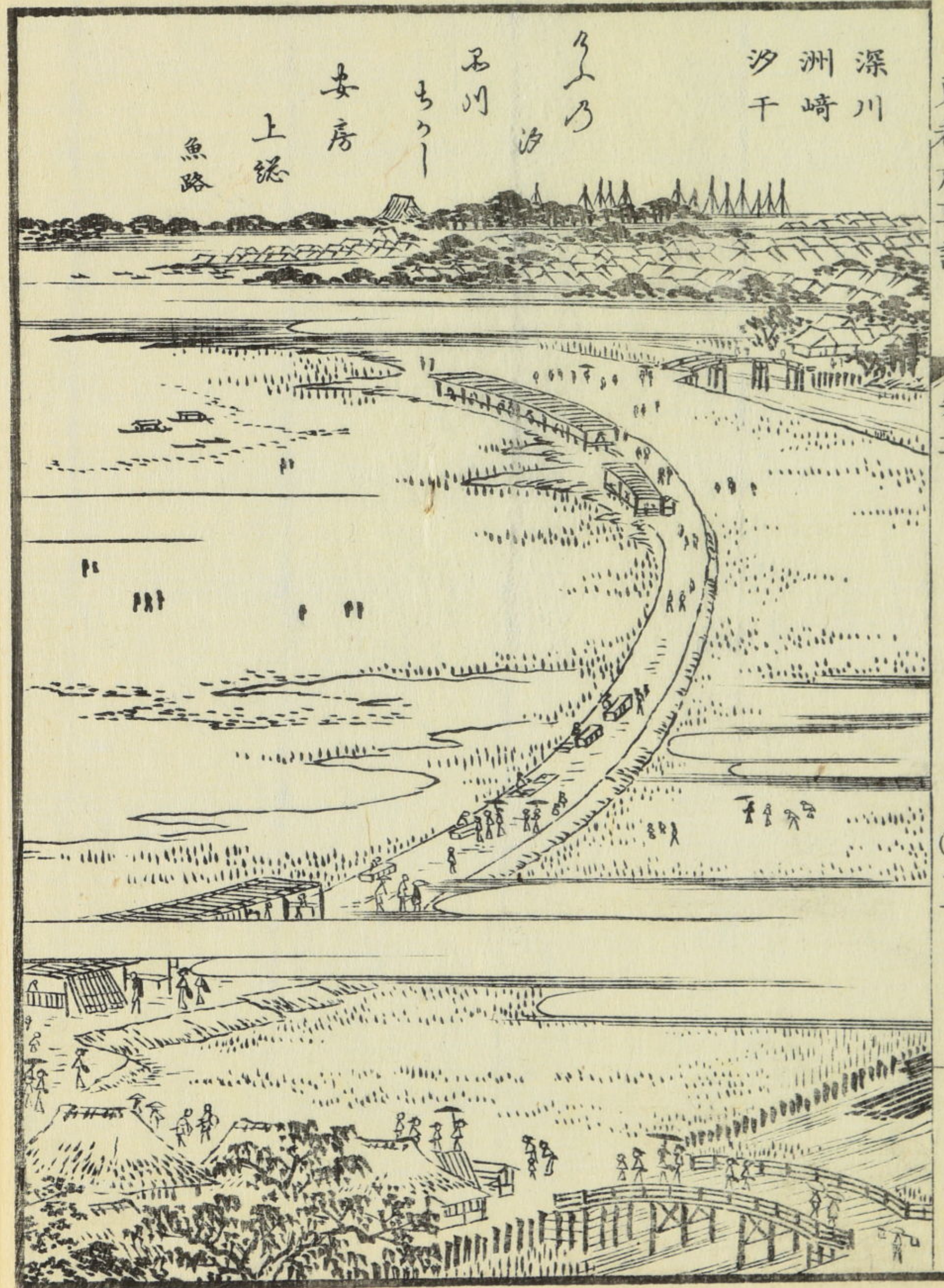
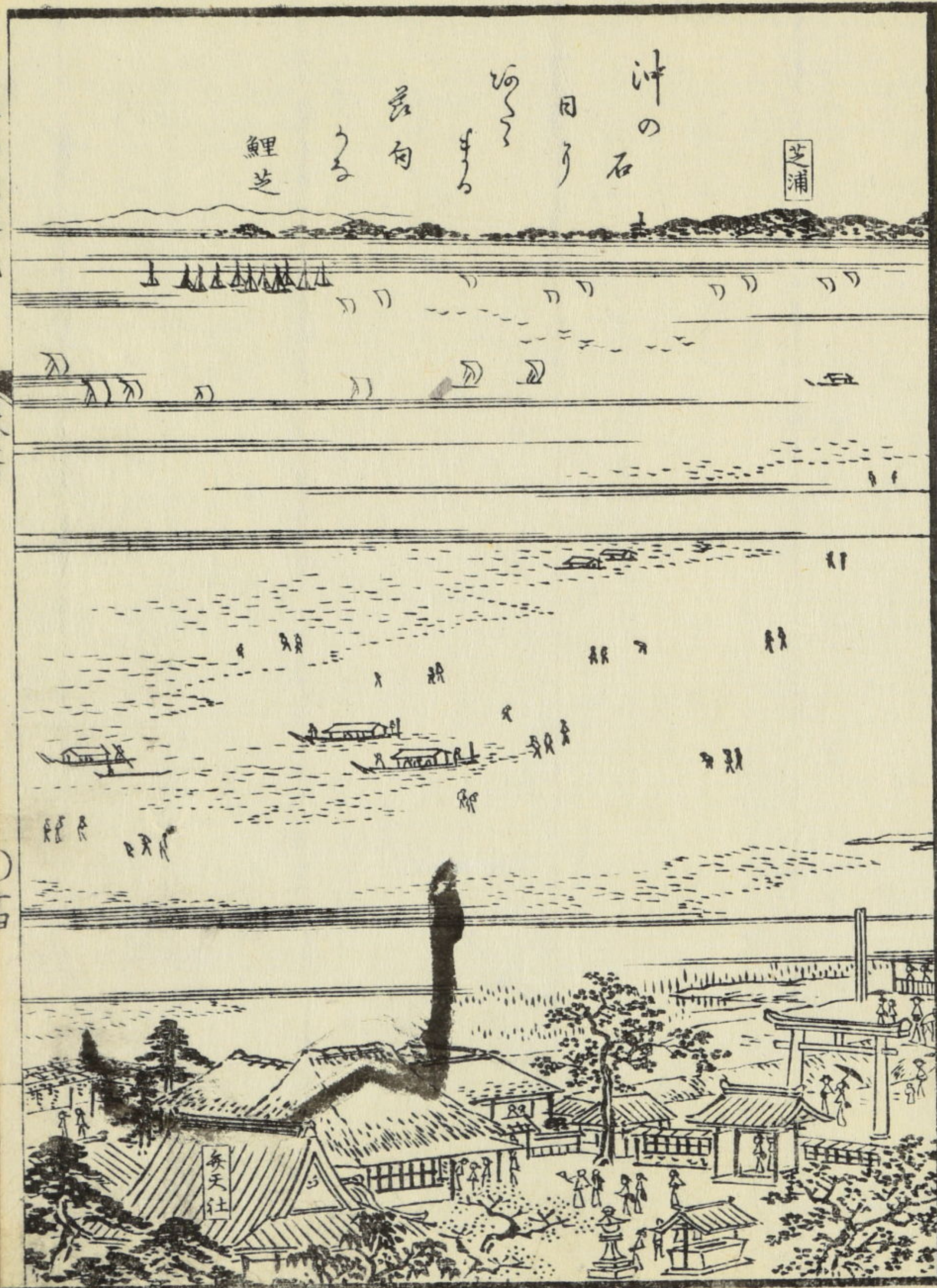
上野坊中

平井

○ 飛波心をな 櫻富士集は云古人云く我亦云ふ日本六十余年の留松殿慶賢の多き誇り
はと園より来八段を甲とけ八段の多ハ士輩武也隅田飛波の四系と冠とけとけり来日隅
田川亦飛多山日著里のまをを備まきり 蜀土いつさるもこれの飛波やま 大坂淡々

三月

朔日 ○ 阿蘭陀人幕府の年今日宅城せーうを来八日定りおー 乃すうー 見物あり
「阿蘭陀もさるまふりる」 鞍 芭蕉



東都
事
言

六十九番	同	宝生院	八十番	同	長延寺	廿七番	赤羽寺	同明院
十九番	あごご	同福寺	廿番	あごご	金剛院	六十六番	あごご下	長福寺
十三番	白くち	同免寺	七十四番	津川	法華院	六十八番	津川	永代寺
七十二番	さるえ	寛王寺	四十番	無戸	普門院	六十番	本寺目	深勒寺
四十六番	本寺目	大徳院	六十一番	もろく	長楽寺	四十九番	八幡	大護院
七十二番	沙弥八	不動院	六十二番	同免	威光院	四十九番	同免	成徳院
六十一番	同免	正福院	六十二番	同免	弘海院	四十九番	同免	密蔵院
六十番	同免	吉祥院	七十八番	下谷	成徳院	四十九番	同免	多宝院
六十三番	同免	自性院	四十六番	中	長久院	七十番	中	飛光寺
六十七番	三き	明王院	六十四番	三き	観智院	六十三番	三き	加納院
四十二番	天王	観音寺	四十九番	田	永楽寺	六十六番	田	東覚寺
六十九番	同免	無量寺	四十九番	平	観音寺	廿七番	す	云性寺
廿六番	中	根生院	廿八番	同	冥寺	廿二番	同	同波寺
廿七番	本	三念寺	六十六番	小	光泉院	七十一番	小	云性院
八十七番	大	護王寺	七十九番	少	光泉院	七十一番	少	福生院
六十四番	同	新米寺	六十二番	下	観音寺	廿七番	同	放生寺
廿八番	砂	金栄院	十六番	中	南花院	十七番	中	長命寺
十六番	石	三寶寺	十四番	村	福徳院	十二番	中	宝伝寺
十一番	石	莊嚴寺	三番	無	多宝院	廿四番	同	三光院
二番	同	二宝院	廿六番	牛	報恩寺	廿九番	同	永平院
廿一番	同	多宝院	六十八番	同	南花院	六十八番	同	光徳院
同	同	林松院	廿三番	川	某王寺	廿七番	同	本田寺

廿六番	旧茶也 も丁	和光院	廿一番	旧南亭 も丁	永福院	十八番	旧	覚徳院
八十二番	旧法干 先	蓮宗院	廿九番	旧法干 秋多	法成院	廿六番	旧南亭 も丁	文殊院
四十四番	旧	顕性寺	十番	小鉢多作 麻布	聖輪寺	九番	喜山 寺の	淨土院
七十三番	赤坂寺 東	威徳寺	六番	麻布 市多丁	不動院	六番	日本村 丁	延命院
七番	下流谷 白子	室泉寺	四番	旧思 り入坂	高福院	八番	旧ニタ ン 草や丁	興重寺
八十八番	白子 唐丁	高世寺						

大進夜話といふ系紙又江戸八十八番八宝曆の法成院の上人本經によりて移す所と云り

十一月〇シタヤ卜谷 穆荷社 秘記

産子の武郡町尾を渡り排糸坪二本宮村を越え又坐せしり雌雄の狢小ゆる立寄家加家加
 也やれより八条柄杓より登臺とゆふ十日よりけ廻嶽へり
 己の刻本社と名てつきの通廻へ武郡比とて宮町の宮へ入山をより元の爲往のふと志急光る
 小添て少ゆりたる懐随院横通出廣り右へ同宮門を廣往る裏をより武郡比と名り正勝町
 寺町同宮へ同二丁目切手町を出廣り廻へ坂をより川崎へて登玉院のふと坂町より因ふ後を
 廻り麻風坂を下山下廣小路近きより南へ下谷町上野町を上下町とて同朋町の宮と東へ加家
 廣に渡り添て少ゆり出廣り立花廣に藩前同東をよりより市之七軒を町出廣り若立も法藏もより
 元の下谷を出入り本社へ廻寄あり○爲久保新下谷町同東坂町村田平永町小掛町ハ下谷の代地
 やしと元々尚社の産子ありあるは今ちやうちんのなりと出り津浦系とをよりて廻へり
 寛政の畫能左の如く各出一逢物とゆふなるなり

- 一番上郷丁二番病久保新下谷丁東坂町三番神田小郷丁四番同平永町五番同八郷町六番
長者町續東坂町七番下谷町一丁ノ八番同二丁目九番上郷字新屋敷正法院口前十番下谷

東坂町十一番 同山崎町^如 十二番 辰岡坂下東坂町 十三番 津田三郎町下谷六郎町赤桑三郎町 十四番 下谷猪倉町 十五番 下谷辻邊屋敷 十六番 赤桑懷隨院つゝあ坂と女町あり

○游内張江摩利支天冬冬律樂無訖○請乳已聖天定疊祥滋油修訖

十月○卜定宗延之法華經示期廿二日追修
 寺の寫圖帳廿三日是日
 思惟表旅生余あり

○不引南番物油往者決一銀聚○下少溪村溪路程多北引而森嚴者

○今昭自深川之光院中抄明法舍木板之悉く載せしもの今ハ子方

十四日○涉東彩意越念仁陳法會、今絶之乎中ホナ於雅注如厄の忘ふよりて

新發寺廟様木の伊ふふて来近金とひひる多し其本堂の器は廊を貫み二十

蒸餾の御趣を以て其の出立より前候事共とあり行儀甚だしくおはし候節より手合ひ
及ふといふ振面をうりいふの目本堂にうたり参り

十月○本芝御穂二丁目 麻呂三丁目 友社急三丁目 別南本龍院三丁目 花出三丁目 大帳排三丁目 打飾三丁目 木三丁目

彦子ハ本芝多丁目二丁目三丁目四丁目本芝入横町同下々町同浅木町あり 麻沸の地あり
佛々縣々々佳糸の地あり

○隅田川水母と梅若塚大念佛
今日と梅若丸忌日ふよりて修治まゝとて
柳樹の若梅若生との社園扉ありあけし

出花天とてふく曇り又ハぬるすありまの月あふるを柳若う涙のぬとのひかりを
主満の懸麻子云々落群集して波をのの柳柳若丸の像もゆきれを煙を風情を
振へり柳若ハ十六日をゆきれあふと古人のゆきも雲かり翌日ハ泣ぬる人もあふ寂然と
して雪の春夜の意のゆきゆきハ寒延のゆきゆき今ハまふまふなり何時整思のゆきゆき
て珠文のゆきゆき能雅俗とて日毎ふまふ地ハ遊賞しきまふゆきゆきゆきゆきゆきゆき

た名やうに宅うりや」あもきさきと掃除せざる柳井とくうをうきひきへり
○此茅の系妙能の神岡麻植最元の母妙能元の像なりといふ

十七日○沙菜之社撞現象
 今の目執り世信謬々、観巻祭と只法水小大う
 花園院正和元年神託に依て始り——と、些今日有程少

一山飛徒法、本修りあり、神臺之基と本臺と近きなり、なり、向作の元ノ齋庵と儲け奉割
は田舎あり、最近、捨十筋、次は柵板、三人太鼓、二人笛、五人太鼓、獅子、三ッ列とあり、そ
より、本臺の南とあり、三社の前より、本臺の南、南にひく、獅子、電り、初め、男獅子、次
は女獅子、次は雌雄の獅子、三ッ列とあり、神臺より、田舎のより、修り、雷神、つとあり、山、水、あり
修り、は、神、臺、より、あり、何、き、も、田、舎、あり、三月、十六、日、又、同、一、世、は、柵、板、の、ま、う、り、と、も、り、

十八日○同系終の當日也

大川筋へは花川戸と云ふ名の宮とあり陸へよりて樋分門とあり還臺あり当臺坊は臺坊
 社臺と云漢と云ふの旧臺倒とて云ふと森本の村とあり榎沼とあり破地の漢人素りて
 社臺は休養をせむと云ふと大戸川の辺に住む漢人後より大森へ移るはよのやう人と云ふと云ふ
 云ふりて除該方の榎師給て休養は又臺子の町とよりハハと遠拂ふと云ふと云ふと云ふ
 は親と云ふと云ふの町と云ふと云ふの如く但し茅町と云ふと云ふと云ふの場所と云ふ

一番 青町 丁目二丁目 二番 尾町 天王町 三番 旗本町 丁目二丁目 湯島片町 四番 尾町 三丁目
 町五番 尾町 丁目二丁目 六番 沼形町 七番 沼形町 八番 沼形町 九番 沼形町 丁目二丁目 十番 沼形町
 東仲町 十一番 東仲町 十二番 東仲町 十三番 東仲町 十四番 東仲町 十五番 東仲町 十六番 東仲町
 聖天町 十七番 聖天町 十八番 聖天町 十九番 聖天町 二十番 聖天町 丁目二丁目
 以上二番 町 丁目二丁目

東下義事記 卷二 六

東都物語

三月十五日
木母寺
大念佛

阿兒何處去柳絮
古江濱猶自春風
起年年飛著人

南郭



今乃
柳
波
夢

寛永開板
いつま
めくり
かもうり
むめり
あふ
みは
ふるつ

東都物語

卷二下

〇一七



俗子新懽隨
去院之

全よりこの所多く持出ては余も今商人
隔る事れ所をざる年八十八日又市立つ

その冒険を牛河り
をその綱索群集を

上 蜀 坂

以法大師入定の自念をあらうて
法念を以て入定するあり
川海 大師
河原 平賀

二本板正覺院

高麗書道
白根高呼高

古詩村蓮花

大塚護水

永戈

今日より四月十日迄度中見物とありて

源河永代

日毎に群集せしむるに人あらず

中興寶記

菅原村長命ナツラと
世に傳ふ

開山後眼禪師の忌あり
桑名^{アチヤ}の事（普茶）云す

本法為蓮如

上人漸忘法會於二日より修禪
 其の寫實也

河内満喜の廿七日より修河
雙葉屋と云ふ土司も多し

四

東都

日教ハ平旦を限としを不問に陳ハ都下より

ともてて繁昌せりとも境内令銀米穀の山をわし種々の造り物藏挑灯未奉納あり
 てををより群集以様冲と号するもの此も若又敷迄の目送り迎ふるも夥し元龜院乃
 陸奥も城川磯磯清源も釈迦如來位伽藍光との沐浴如來總匠願田ふ訪著ふに等て
 仰きも主眼定り有の法花宗の院多々々々法華宗をも夢驗も源川清也も本前法恩も
 等しく同帳ありも余同宗のも院ありても同帳なり同宗同帳の場合ハ何れに限りも
 芝合板の傳もへむり蓮臺へ接して是より吾り町と經て開き申うのも院へふ若し紙
 りを束のあつたりかり

み元集 手くの春秋武にのほはよりありある君神君仁君とありのほとて無慮の
市威現ありある中にも尚時の無帳はさうはつてらとれとてて官督鄙るのさうと

